

中学校第2学年 技術・家庭科（家庭分野） 学習指導案

期 日 平成25年10月7日（月）第5校時

場 所 水俣市立袋中学校 第2学年教室

指導者 教諭 中村 純子

- 1 題材名 「よりよい消費生活を目指して」 D 身近な消費生活と環境 (1) イ
(東京書籍 新しい技術・家庭 家庭分野 P224～225)

2 題材について

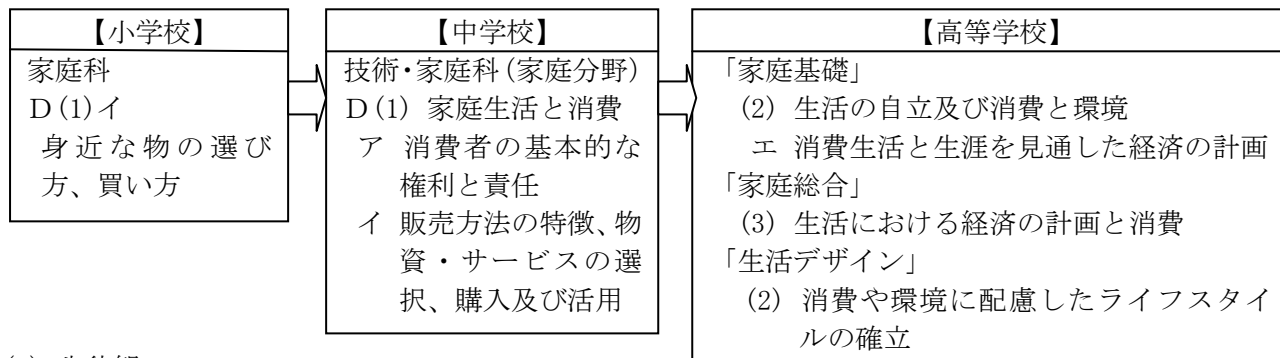
(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領の内容「D身近な消費生活と環境」の項目(1)イ「販売方法の特徴を知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができること」にあたる。私たちの身の回りには商品があふれ、世界中の様々な情報を瞬時に入手できる状況にある。消費者を取り巻く環境は、インターネットの普及と同時に大きく変化し、商品の購入や支払い方法も多様化して複雑になってきている。収入を得ていない中学生の消費行動は、家庭の中での限られた行為であるため、大人と比較すると経験は少ない。この生活経験の乏しい若者が、高齢者に次いで消費者トラブルの被害者となっている。大人と同じ情報社会の中で生活している中学生にとって、必要な情報を収集し判断する能力を育成することは、自立した消費者を育てることでもあると言える。

平成25年6月28日、「消費者教育の推進に関する基本的な方針」が閣議決定された。この基本方針は、平成24年12月に施行された「消費者教育の推進に関する法律」に基づき、消費者教育の総合的かつ一体的な推進のための指針として作成されたものである。児童生徒の発達段階に応じた、問題解決学習や批判的思考力に軸足を置いた消費者教育の授業実践が求められている。

しっかりと意思決定の力を育てていくことは、「生きる力」を育てる上でも重要である。この学習を通して、一人ひとりの消費行動が、社会生活にどのような影響を及ぼすか、環境と関連づけて考えさせ、行動指針の作成につなげていきたい。

(2) 系統観



(3) 生徒観

○本学級は、男子19人(青嵐学級の1人を含む)、女子16人、計35人のクラスである。男女の仲が良く、様々な活動に協力して取り組む姿が見られる。学習課題や指示を理解するまでに時間を要する生徒がいるが、周囲の生徒が声をかける場面も多くみられるようになった。

○家庭科の学習においては、1年時に食生活、2年の1学期に衣生活・住生活について学習しているが、どの内容においても生活経験の乏しさが窺える。家族にしてもらっている生活が当たり前となり、積極的に家庭での実践を行っている生徒は少ない。

○消費生活に関するアンケート結果は以下のとおりである。(単位：人、32人中)

質 問 項 目	とてもそう思う	まあまあそう思う	あまり思わない	そう思わない
家庭で物や金銭の大切さについて話題にする。	8	19	3	2
家庭の収支について中学生も知る必要がある。	4	15	8	5
商品の選択と購入について、理解している。	10	19	3	0
マークや表示を確認して選ぶ事は大事である。	10	11	8	3

質問項目	とてもそう思う	まあまあそう思う	あまり思わない	そう思わない
「欲しいもの」と「必要なもの」の区別ができる。	12	17	2	1
インターネットによる販売を利用している。	7	4	4	17
レシートは必ずもらって持ち帰る。	7	11	5	9
家族に購入した商品について報告する。	5	10	10	7

(4) 指導観

- 中学生に身近な消費生活の事例を多く取り入れることで、意識して生活していなかった実態を明らかにし、消費生活と環境との関係を理解させる。
- グループ学習には、他教科でも活用しているホワイトボードを利用し、お互いの考えを文字と言葉による表現で理解し協議できるようにする。配慮を要する生徒については、個別に課題を指示して取り組ませる。
- 毎時間の板書形式を統一し、学習のねらいの明確化と、小テストによる基礎的・基本的学習事項の確認をパターン化して行い、消費者としての自覚を促す。

【視点1】 思考力・判断力・表現力等の育成	【視点2】 学習評価と指導の改善	【視点3】 情報活用能力の育成
<p>【視点1】本題材では、グループ学習を中心に、単元を通したパフォーマンス課題として、「袋中消費者の心得6カ条」と題した、消費行動の指針を作成させる。商品の選定については、比較検討の視点と、環境との関連付けの視点で考えさせる。修学旅行を実践の場面として位置付け、消費行動を体験した後の振り返りまでを一連の学習としてとらえて、思考力・判断力・表現力等を育成していく。</p>	<p>【視点2】本題材で習得させたい消費生活に必要な基礎的・基本的な知識については、授業で示すキーワードを毎時間の小テストで確認させる。この習得した知識の活用として、身近な買い物で消費者側と販売者側に分かれてロールプレイングに取り組ませる。動作と同時に判断の根拠を記述させ、思考の変化を読み取り指導の改善に繋げる。</p>	<p>【視点3】本題材では、実際の商品を手に取り比較する過程を重視し、検討させる。商品の「価格」を伏せて機能性や環境への影響について判断した後で、価格を示して再考させる。物資・サービスの情報を多面的に分析して判断できるように情報活用の実践力を育てると同時に、情報社会に参画する態度の育成も目指す。</p>

3 題材の目標と評価規準（参考：国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」）

題材の目標	ア 自分や家族の消費生活に関心を持ち、消費者の基本的な権利と責任について理解すること。 イ 販売方法の特徴について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができること。
生活や技術への関心・意欲・態度	①自分や家族の消費生活について関心を持ち、消費の在り方を改善しようとしている。 ②身近な販売方法に関心を持ち、その利点と問題点について考えようとしている。
生活を工夫し創造する能力	①収集・整理した情報を活用して物資・サービスの選択、購入及び活用について考え、工夫している。
生活の技能	①物資・サービスの選択、購入及び活用について、必要な情報を収集・整理している。
生活や技術についての知識・理解	①消費者の基本的な権利と責任、消費者基本法の趣旨について理解している。 ②中学生にかかわりの深い販売方法の特徴について理解している。 ③物資・サービスの選択、購入及び活用に関する知識を身に付けている。

4 指導・評価の計画（8時間扱い 本時8／8）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 【三つの視点から】	評価基準（評価方法） B基準
1	1	○私たちの消費生活と環境（オリエンテーション） ○消費者としての自覚を持つ	・これまでの消費行動を振り返らせ、消費生活と環境について、学びの意義を自覚させる。 【視点1】自分たちの日常生活を「消費者と契約」をキーワードに分類し、大人との違いをグループで協議させる。	関心・意欲・態度①(発表) 自分や家族の消費生活について関心を持ち、消費の在り方を改善しようとしている。
2	2	○商品の選択と購入について考えよう	・物資やサービスの例を具体的に示し、販売方法や支払い方法が多様化している実態を把握させる。 【視点1】消費行動の失敗例を出し合い、望ましい消費者の在り方を協議し発表させる。 【視点3】実物を通じた必要な情報の収集・整理が、消費行動の重要な要素であることを理解させる。	関心・意欲・態度②(発表) 身近な販売方法に関心を持ち、その利点と問題点について考えようとしている。 技能①(学習シート) 物資・サービスの選択、購入及び活用について必要な情報を収集・整理することができる。 知識・理解②(学習シート) 中学生にかかわりの深い販売方法の特徴について理解している。
3	1	○消費者の権利と責任を知ろう	・中学生にも消費者として権利と責任があることを、具体例を示して理解させる。 【視点3】[消費者の5つの責任]については、情報社会に参画する態度と関連付けて、適切な行動について理解させる。	知識・理解①(学習シート) 消費者の基本的な権利と責任、消費者基本法の趣旨について理解している。
4	3	○消費者トラブルを解決する方法を知ろう	・ロールプレイングを取り入れ、主体的に対処法を学ぶ機会とする。 【視点1・3】ロールプレイングの中で、情報活用の視点や公的機関への相談などとも関連付けて、対応を検討させる。 【視点2】学習シートを工夫し、思考の過程を可視化して評価する。	工夫・創造①(発表・学習シート) 収集・整理した情報を活用して物資・サービスの選択、購入及び活用について考え、工夫している。 知識・理解③(発表・学習シート) 物資・サービスの選択、購入及び活用に関する知識を身に付けている。
5	1 本時	○よりよい消費生活を目指して	・[買い物は投票]をキーワードにして、学習ノートの選択や[消費者の心得6カ条]の作成に取り組みさせる。 【視点1】協同学習を通して個人の思考に揺さぶりをかけ、確かな根拠を持って判断する事や伝える事を意識させる。 【視点2】学習シートを工夫し、思考の過程を可視化して評価する。 【視点3】意思決定のプロセスにおいては、必要な情報の収集・整理が不可欠な要素であると認識し実践できるようにする。	工夫・創造①(発表・学習シート) 学習ノートの選択において、収集・整理した情報を活用して考え、根拠を明らかにして判断している。 関心・意欲・態度①(学習シート) 自分や家族の消費生活について関心を持ち、消費行動の課題を把握した上で、消費の在り方を改善しようとしている。

5 本時の学習

(1) 目標

- 学習ノートの選択において、収集・整理した情報を活用して考え、工夫して判断できるようにする。
(生活を工夫し創造する能力)
- 自分や家族の消費生活について関心をもち、消費行動の課題を把握した上で、消費の在り方を改善できるようにする。
(生活や技術への関心・意欲・態度)

(2) 評価基準

「工夫・創造①」(発表・学習シート)

(B基準) 学習ノートの選択において、収集・整理した情報を活用して考え、根拠を明らかにして判断している。

(A基準) 学習ノートの選択において、収集・整理した情報を環境に配慮した消費行動とも関連付けて考え、根拠を明らかにして判断している。

「関心・意欲・態度①」(学習シート)

(B基準) 自分や家族の消費生活について関心をもち、自らの課題を把握した上で、消費の在り方を改善するために、「My宣言」を書いている。

(A基準) 自分や家族の消費生活について関心をもち、自らの課題を把握した上で、消費の在り方を改善するために、具体的な行動と関連づけて「My宣言」を書いている。

(3) 展開

過程	学習活動	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 【三つの視点から】	備考
導入 5分	1 前時の学習を振り返る。	○前時のキーワードを思い出して、消費者トラブルの対処法を振り返りましょう。	○前時までのキーワードを示し、本時は学習の総括となる時間であることを意識させる。	確認テスト
展開 38分	2 本時の学習課題を確認する。	課題1「夢への架け橋ノート」をみんなで考えて選ぼう。		学習シート
	3 数種類のノートについて、比較・検討する。 (20分)	○[買い物は投票]をキーワードに、商品の情報を比較・検討してみましょう。	○学習活動の概要と時間を指示する。	教科書
	(1) 自分なりの考えをもつ。	○選択の理由を優先順位をつけて学習シートに書きましょう。	○商品の価格以外の要素で比較・検討して判断させる。	ホワイトボード (個人)
	(2) 班員で互いの判断を出し合い1つに絞り込む。	○班別協議の時は、最も重視した判断理由をホワイトボードに書いて意見交換を行ってください。 ○班員の説明を聞いて、自分の結論・説明に変更や修正がある場合は変更欄に記入しましょう。	【視点2】個人で考えた判断理由やグループ協議後の変更理由を学習シートに書かせて思考の過程を明らかにする。 評価：工夫・創造(学習シート) B：学習ノートの選択において、収集・整理した情報を活用して考え、根拠を明らかにして判断している。	ホワイトボード (班用)
(3) 班別の意見を発表する。	○班の決定を黒板に表示し理由を説明して下さい。	(B基準に達しない生徒への手だて) 検討の視点で重要視したことを中心に書かせる。		
(4) 価格を含めて再検討し班の意見を1つに絞り込む。	○ノートの価格を表示します。この価格を含めて再度班で検討し1つに絞り込みましょう。	○価格中心の判断に偏らないように、環境に配慮した消費行動とも関連づけて再検討させる。		ホワイトボード (班用)

	<p>(5) 班別の選定理由・変更理由を発表する。</p> <p>4 「意思決定のプロセス」について知る。(3分)</p> <p>5 「袋中2年消費者の心得6カ条」の作成について班で検討する。(15分)</p> <p>(1) 班で考えて発表する。</p> <p>(2) 再度検討して発表する。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>【言語活動】 消費生活に関連するキーワードを基に、その語句や行動の意味を理解して、条文の文章表現ができるようにする。</p> </div>	<p>○班の最終決定を黒板に掲示して選定の理由を発表してください。</p> <p>○「意思決定のプロセス」に沿って、次の課題に取り組みましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題2 「袋中2年消費者の心得6カ条」を作ろう。</p> </div> <p>○修学旅行は、消費行動の学習の場です。クラスみんなで消費者の心得を書きあげましょう。</p> <p>○まとめた意見を発表しましょう。</p> <p>○みんなが納得できる内容と表現になっているか再度見直してみましょう。</p>	<p>【視点1】協同学習を通して個人の思考に揺さぶりをかけ、確かな根拠を持って判断する事や伝える事を意識させる。</p> <p>○「意思決定のプロセス」について、ノート選択の流れを基に説明し、理解させる。</p> <p>○これまでの学習を振り返って、キーワードを確認しながら班で意見を出し合い考えさせる。</p> <p>【視点3】「意思決定のプロセス」においては、必要な情報の収集・整理が不可欠な要素であると認識し実践できるようにする。</p>	<p>ホワイトボード (班用)</p>
<p>整理 7分</p>	<p>6 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 「消費者の心得6カ条」を学習シートに記入する。</p> <p>(2) よりよい消費生活を目指して、自分は何を実践化していくのかまとめる。</p>	<p>○「消費者の心得6カ条」は葉に載せますが、修学旅行の事前準備についてもこの6カ条に沿って考え実践していきましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題3 よりよい消費生活を目指して「My宣言」を書こう。</p> </div> <p>○最後に、自分にとっての最も重要な消費行動のポイントを「My宣言」にまとめましょう。</p>	<p>○日常の家庭生活は、消費行動の実践の場であり、主体的に考えて判断し実行できるようにするためには、行動の振り返りと評価が重要であることを理解させる。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評価：関心・意欲・態度 (学習シート)</p> <p>B：自分や家族の消費生活について関心を持ち、自らの課題を把握した上で、消費の在り方を改善するために、「My宣言」を書いている。</p> </div>	<p>学習シート</p>